

春日井市の男女共同参画に関する統計

目次

I 統計資料等からみる現状	1
1. 人口について	1
(1) 人口の推移（男女別）	1
(2) 年齢3区分別の人口の推移	1
(3) 人口ピラミッド	2
(4) 合計特殊出生率	2
2. 世帯について	3
(1) 世帯数・世帯あたり人員の推移	3
(2) 世帯家族類型の推移	3
(3) 高齢単身世帯の推移	4
(4) ひとり親世帯の推移	4
3. 労働について	5
(1) 女性の年齢階級別労働力人口比率	5
(2) 男女別一般労働者所定内給与の推移	6
(3) 共働き率の推移	7
(4) 非正規雇用者の割合の推移	8
(5) 男女別就業日数 200 日以上就業者の割合の推移	9
(6) 週間就業時間 60 時間以上の雇用者の割合の推移	10
(7) 世帯類型別男女別家事育児時間	11
4. DV について	12
(1) DV 相談件数の推移	12
5. 国際的な男女共同参画について	13
(1) ジェンダーギャップ指数	13
(2) 各分野におけるジェンダーギャップ指数	13
(3) 日本とアイスランドのジェンダーギャップ指数の比較	14
6. 女性の委員や管理職の状況	15
(1) 附属機関等の女性の委員の状況	15
(2) 市職員（行政職）の女性管理職	15

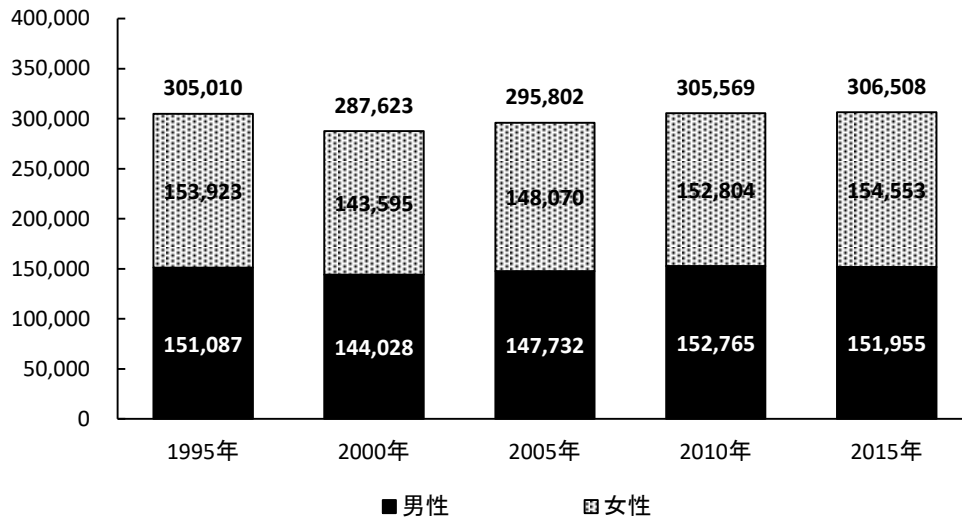
I 統計資料等からみる現状

1.人口について

(1)人口の推移(男女別)

春日井市の人口は2000年に減少に転じましたが、2005年には再び増加に転じ、その後は300,000人強で推移しています。男性の人口は微増していますが、女性の人口は微減しています。

図表 1 人口の推移



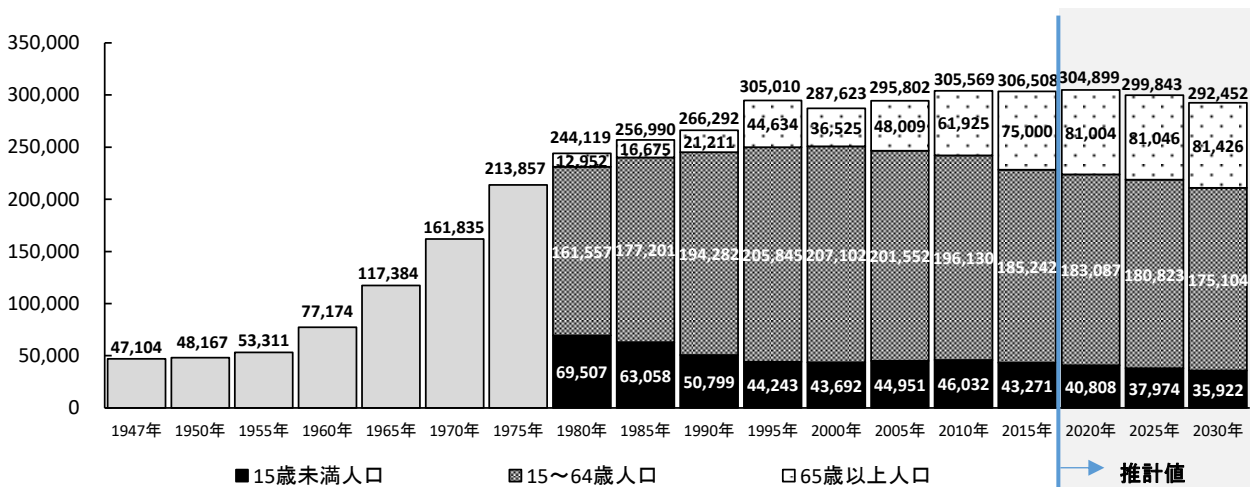
資料：国勢調査

(2)年齢3区分別の人口の推移

春日井市の年齢3区分別人口をみると、1980年以降15歳未満人口は減少傾向にあり、65歳以上人口は増加しています。また、65歳以上人口は、1980年と2015年を比較すると約5.8倍となっており、少子高齢化が進行していることがうかがえます。

2020年からの将来人口推計をみると、春日井市の人口は減少傾向にあります。65歳以上人口は微増が続き、2030年では総人口の約3割が65歳以上人口になることが予測されています。

図表 2 人口年齢3区分別人口の推移

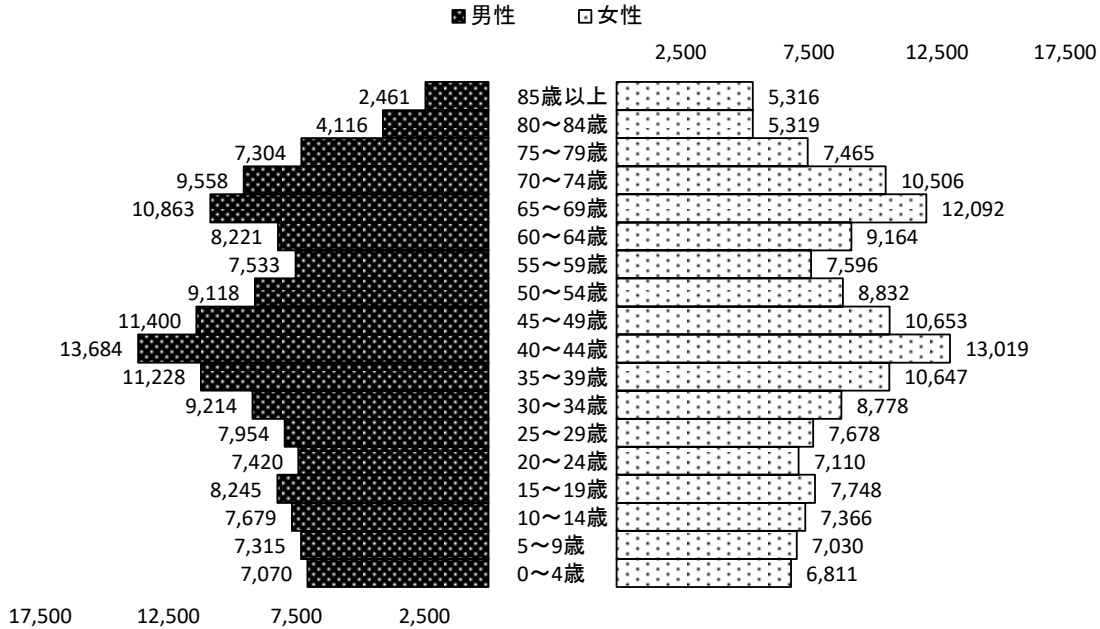


資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』

(3)人口ピラミッド

春日井市では40歳から44歳の団塊のジュニア世代が突出し、0～4歳人口の男性の約1.94倍、女性の約1.91倍となっています。

図表 3 春日井市の人口ピラミッド

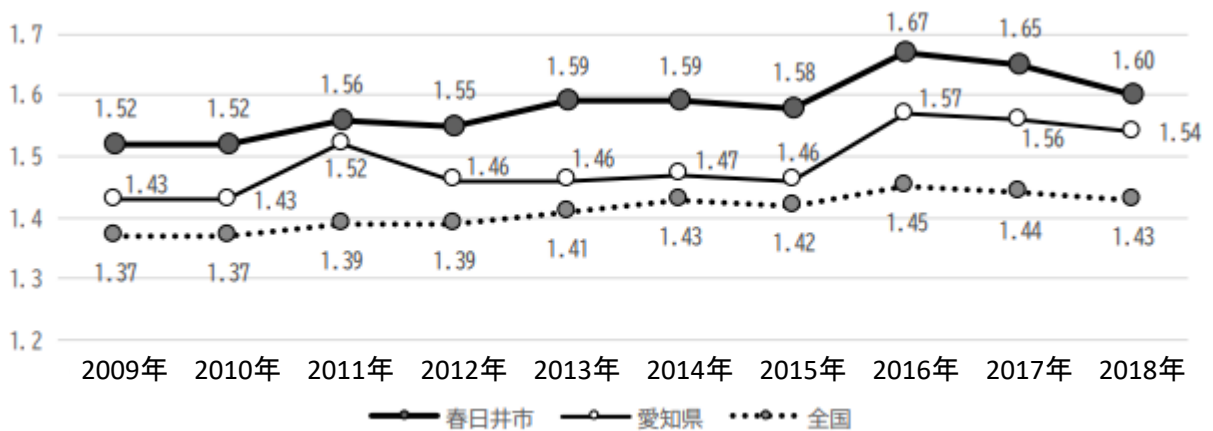


資料：国勢調査（2015年）

(4)合計特殊出生率

春日井市の合計特殊出生率は増減を繰り返しながら推移しています。全国・県と比較しても高い値で推移してきました。

図表 4 合計特殊出生率の推移



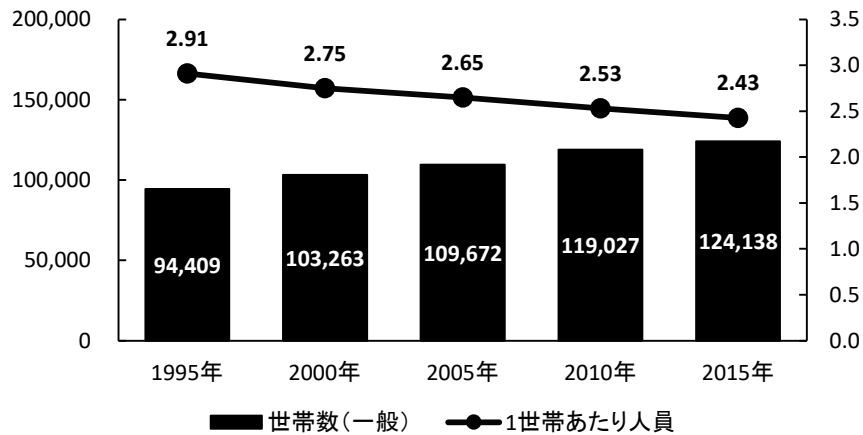
資料：国、県は人口動態統計、市は春日井市算出

2. 世帯について

(1) 世帯数・世帯あたり人員の推移

春日井市の世帯数は増加傾向にありますが、1世帯あたり人員が減少傾向にあり、核家族世帯や単独世帯が増加していることがうかがえます。

図表 5 世帯数・世帯あたり人員の推移

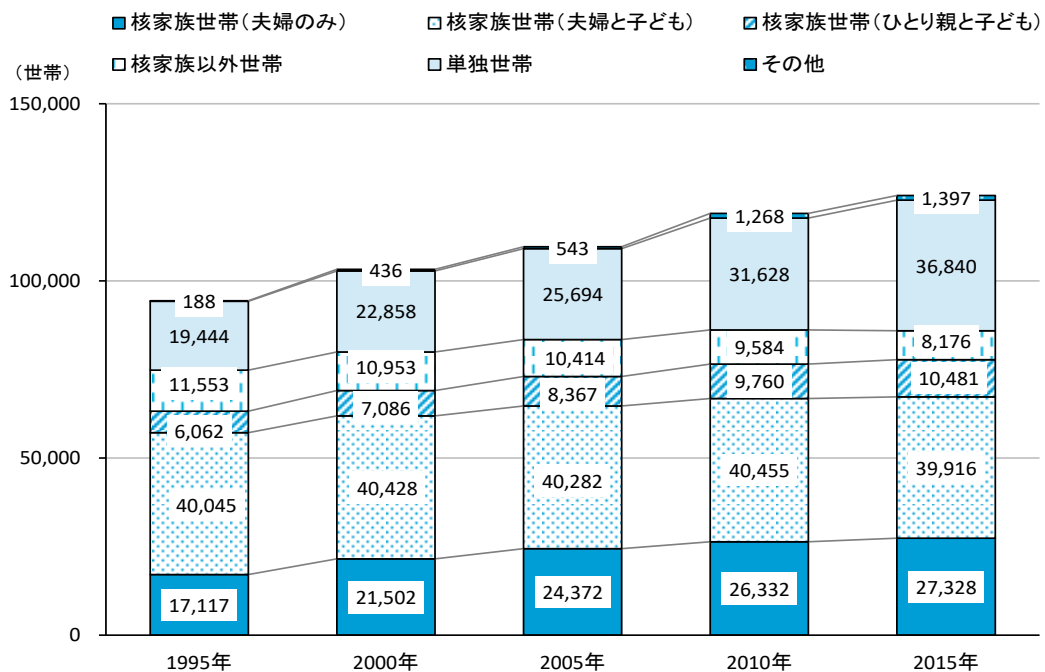


資料：国勢調査

(2) 世帯家族類型の推移

春日井市の世帯家族類型は、核家族世帯、単独世帯が増加し、多世代同居などの核家族以外世帯が減少しています。

図表 6 世帯家族類型の推移

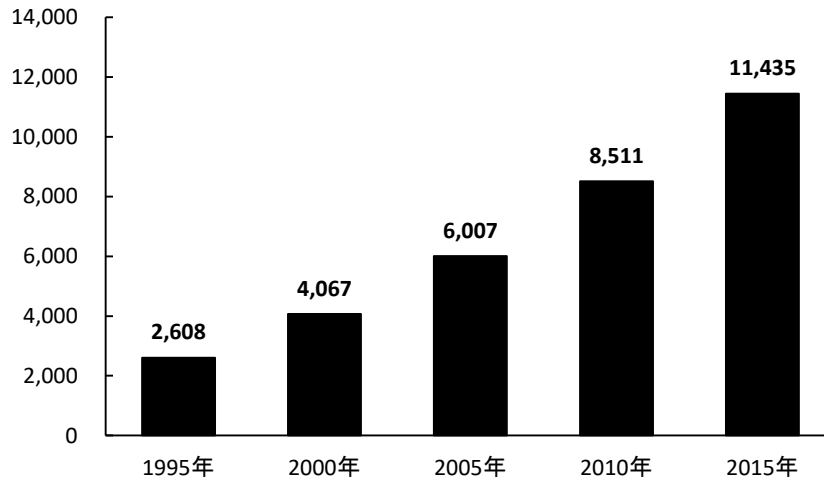


資料：国勢調査

(3) 高齢単身世帯の推移

春日井市の高齢者単身世帯が増加傾向にあり、1995年と2015年を比較すると約4.38倍となっています。今後も、高齢者単身世帯は増加することが予測されます。

図表 7 高齢者単身世帯の推移



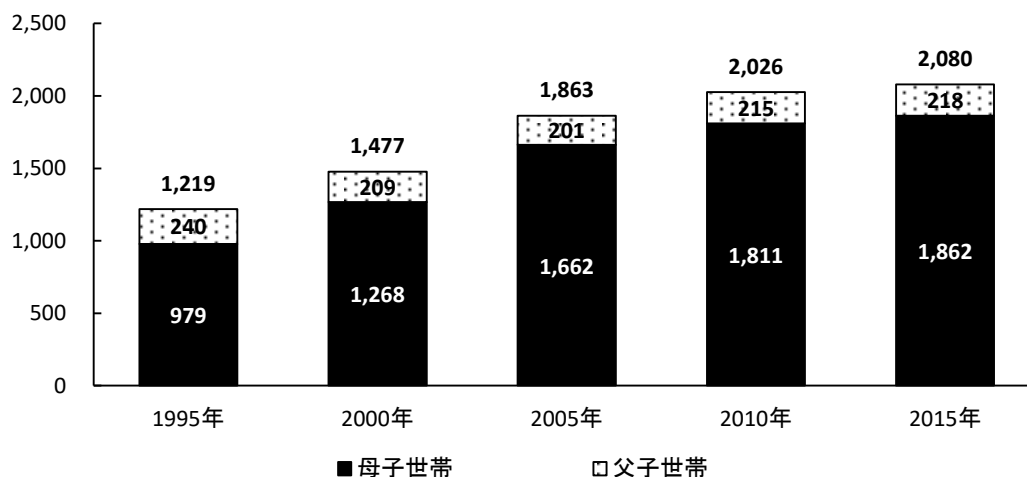
資料：国勢調査

(4) ひとり親世帯の推移

春日井市のひとり親世帯は増加傾向にあります。なかでも母子世帯が大きく増加しており、1995年と2005年を比較すると、約1.9倍の増加となっています。

父子世帯は、1995年から2005年にかけて減少したものの2010年以降増加しています。

図表 8 ひとり親世帯の推移



資料：国勢調査

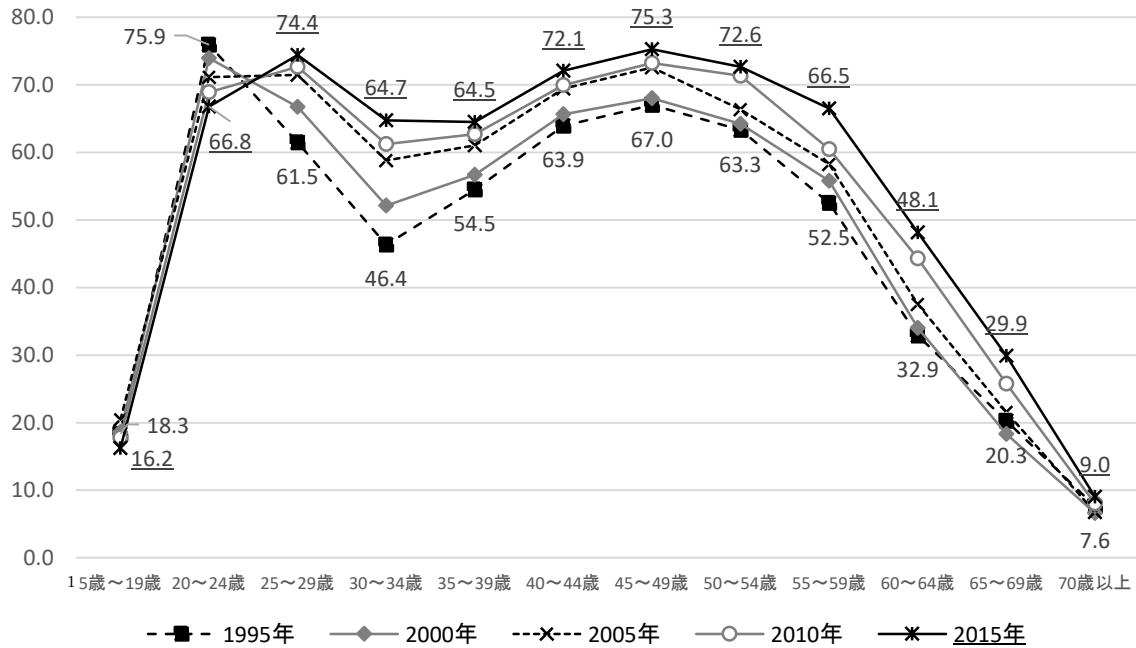
3. 労働について

(1) 女性の年齢階級別労働力人口比率

春日井市の女性の年齢階級別労働力人口比率は、20～24歳を除き、増加傾向にあります。

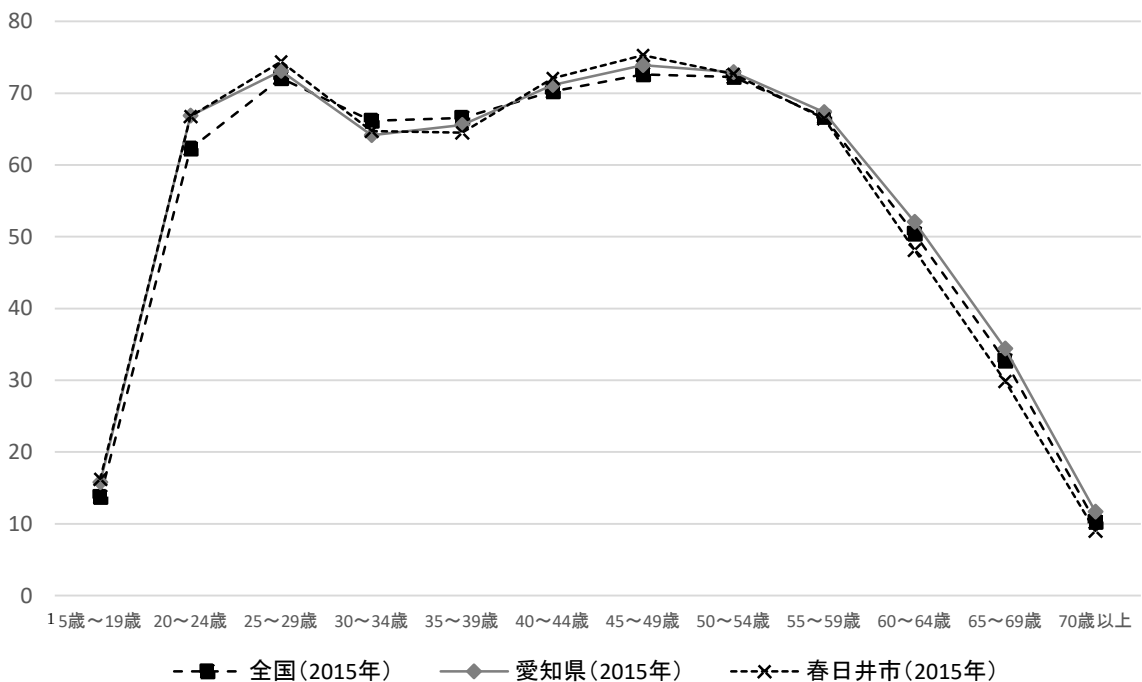
また、30歳代を底とするM字カーブが徐々に浅くなってきており、出産や育児期に就労を離れる女性が少しずつ減少していることが分かります。また、全国や愛知県とも同水準で推移しています。

図表 9 春日井市の女性の年齢階級別労働力人口の比率



資料：国勢調査

図表 10 女性の年齢階級別労働力人口の比率（全国・県比較）



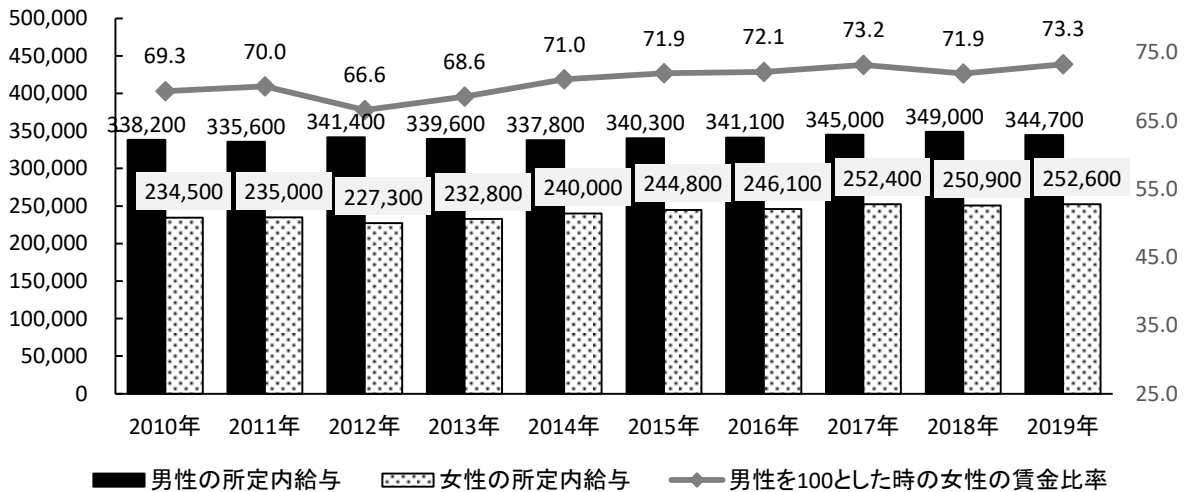
資料：国勢調査

(2)男女別一般労働者所定内給与の推移

愛知県の男女別一般労働者所定内給与については、男性を100とした時の女性の賃金比率は約7割前後を推移しています。また2010年と比較すると男性を100とした時の女性の賃金比率は上昇傾向にあります。

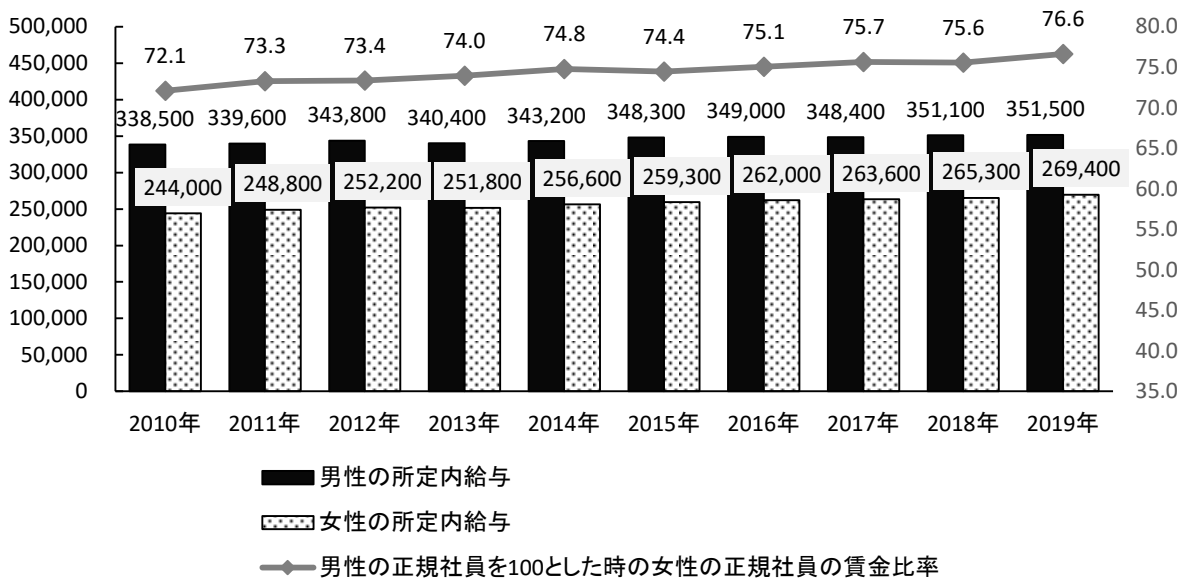
国の男女別一般労働者所定内給与における女性の賃金比率をみると、男性の正規社員を100とした時の女性の正規社員の賃金比率は7割台で推移している一方で、非正規社員は5割台で推移しています。

図表 11 愛知県の男女別一般労働者所定内給与の推移



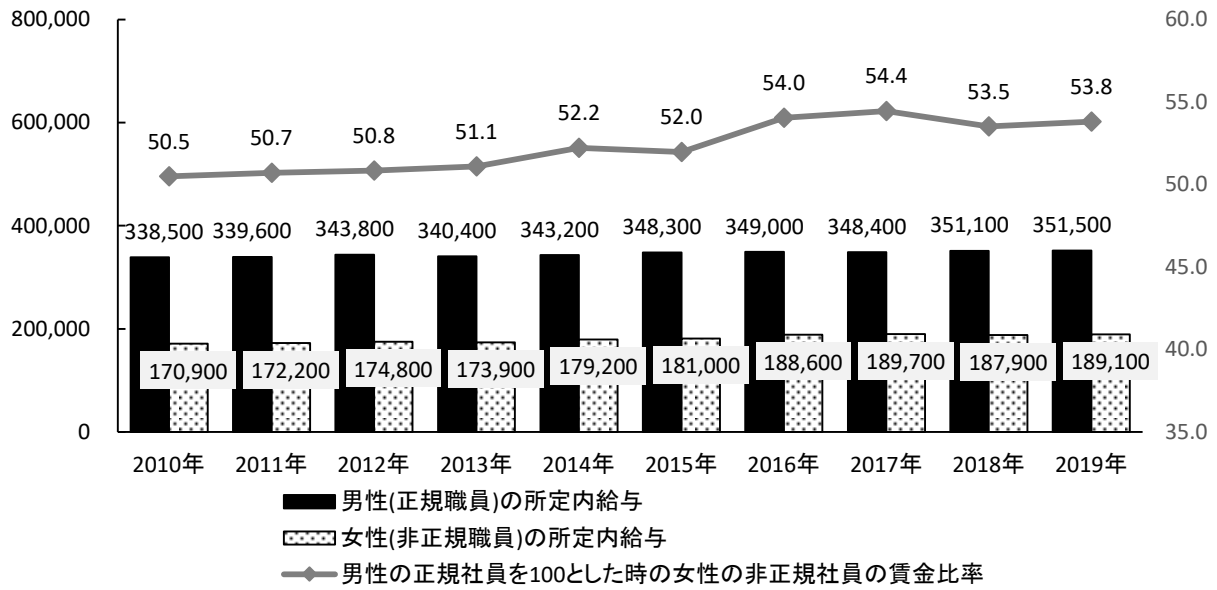
資料：賃金構造基本統計調査

図表 12 国の男女別一般労働者所定内給与（正規社員）の推移



資料：賃金構造基本統計調査

図表 13 国の男女別一般労働者所定内給与の推移

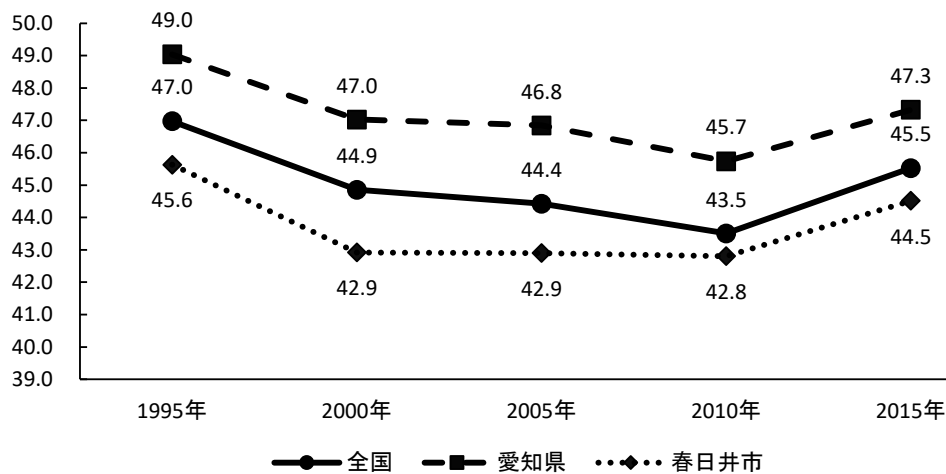


資料：賃金構造基本統計調査

(3) 共働き率の推移

夫と妻の2人とも働いている共働き率については、2010年までは、減少傾向が続いていましたが、2015年に増加へと転じています。全国や愛知県と比較すると、春日井市は低い水準で推移しています。

図表 14 共働き率の推移



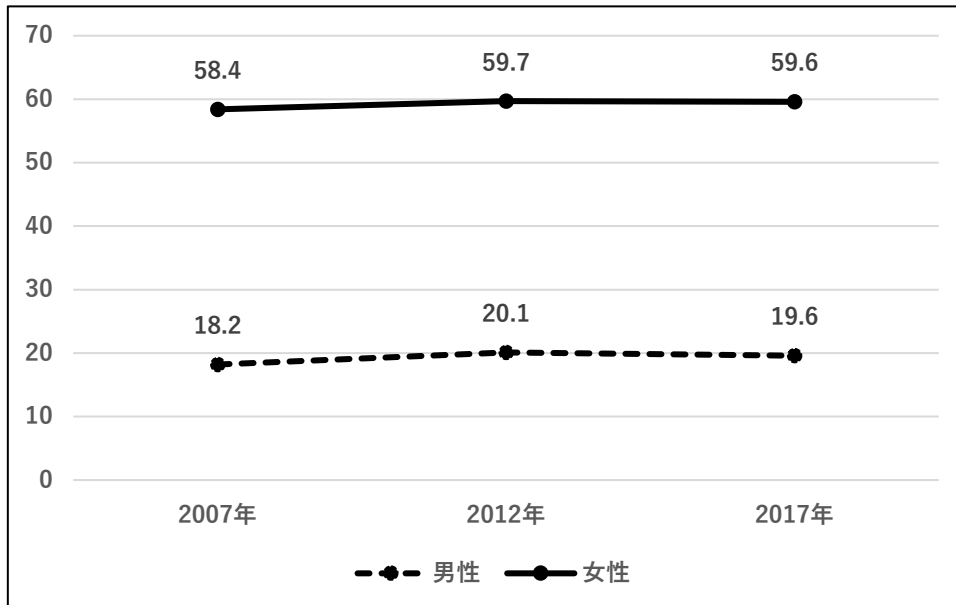
資料：国勢調査

(4)非正規雇用者の割合の推移

愛知県の雇用者（役員を除く）に占める非正規雇用者の割合の推移は、男女ともにほぼ横ばいとなっています。

女性の非正規雇用者は男性の約3倍となっており、女性の雇用者（役員を除く）に占める非正規雇用の労働者の割合が高くなっています。

図表 15 愛知県の性別非正規雇用者の割合の推移



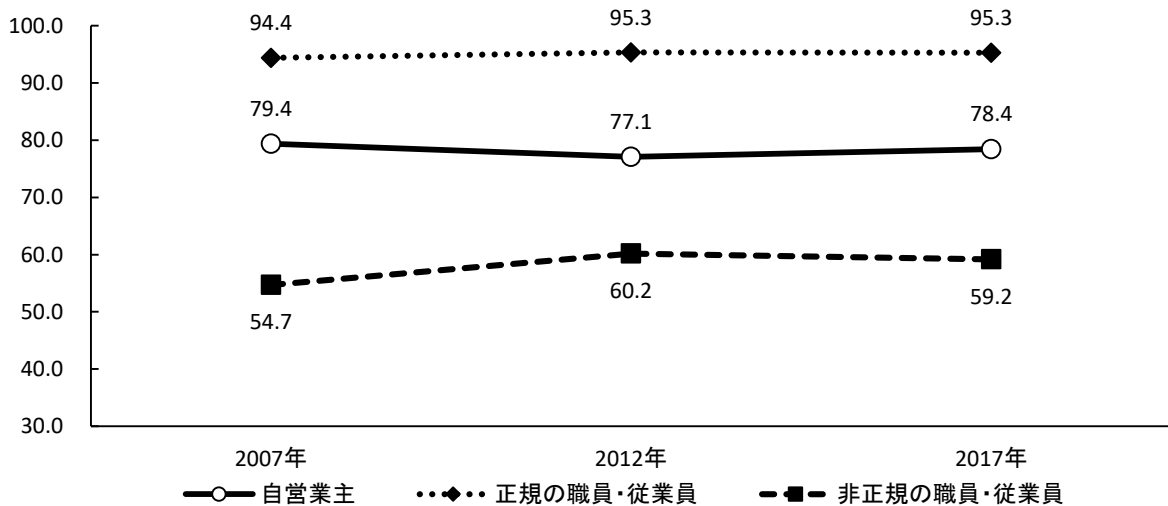
資料：就業構造基本調査

(5)男女別就業日数 200 日以上就業者の割合の推移

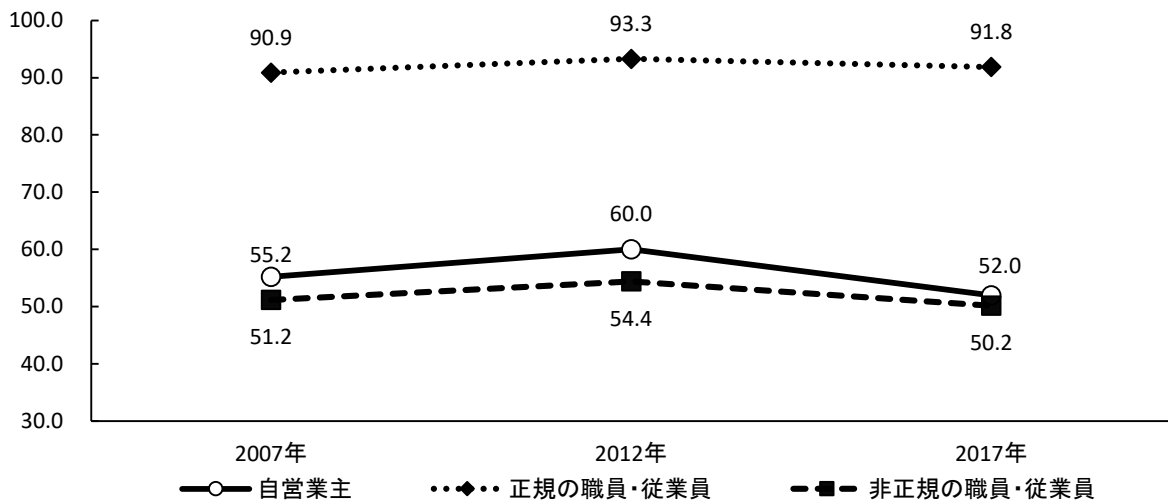
愛知県の男女別就業日数 200 日以上就業者の割合の推移は、全ての項目でほぼ横ばいとなっています。

男女別で比較すると、男性は自営業主、正規職員・従業員、非正規職員・従業員の全ての項目において、就業日数 200 日以上の割合が女性と比較して高くなっており、特に自営業主の差が大きくなっています。

図表 16 男性の就業日数 200 日以上就業者の割合（愛知県）



図表 17 女性の就業日数 200 日以上就業者の割合（愛知県）

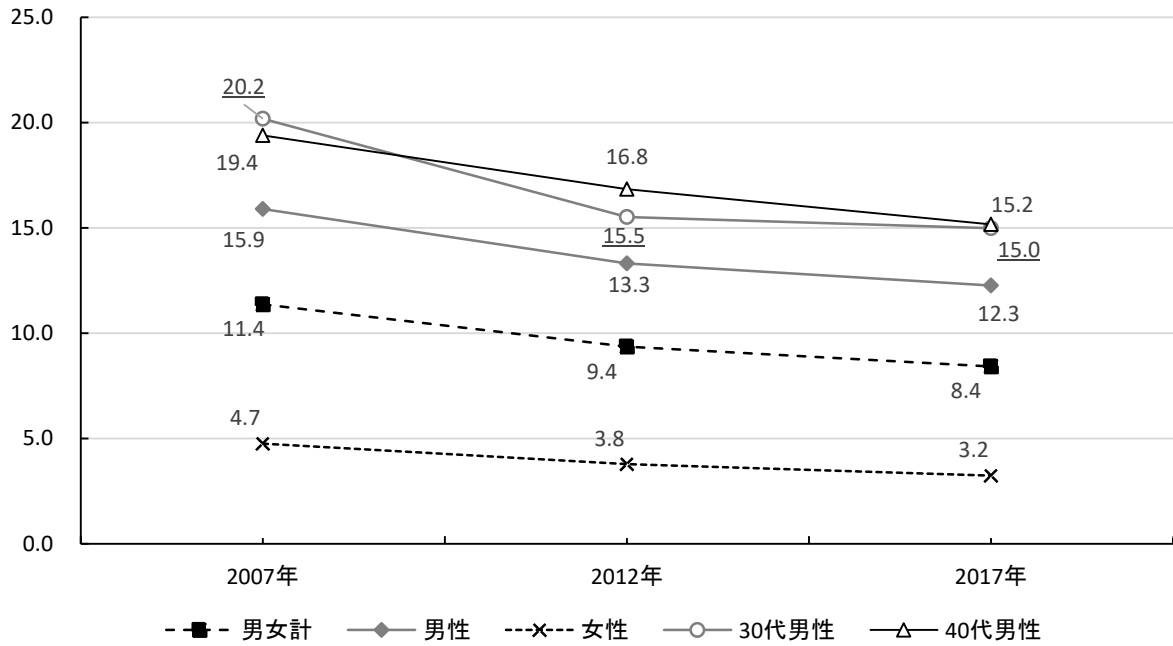


資料：就業構造基本調査

(6)週間就業時間 60 時間以上の雇用者の割合の推移

愛知県の週の労働時間が 60 時間以上の雇用者の割合は、2007 年から 2017 年にかけて低下傾向で推移しています。また、30・40 代の男性は、以前より低下しているものの男性全体の割合と比較すると高い割合で推移しています。

図表 18 男女別週間就業時間 60 時間以上の雇用者の割合の推移（愛知県）

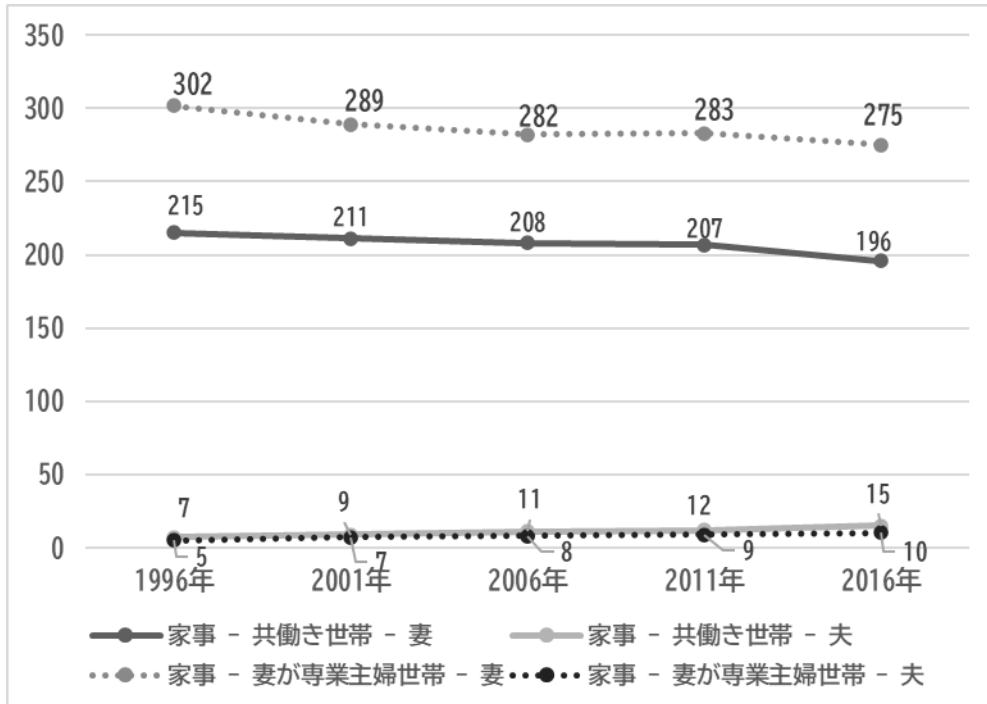


資料：就業構造基本調査

(7)世帯類型別男女別家事育児時間

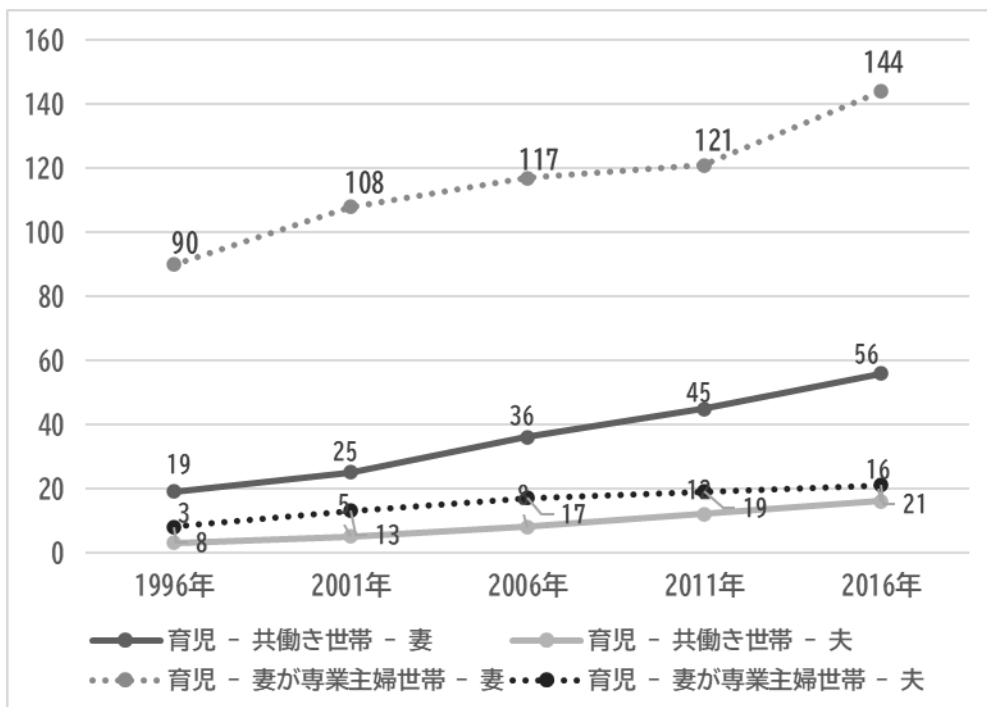
男女別の家事、育児時間（週全体）の推移をみると、男性は全て横ばい傾向ですが、女性は共働き世帯、妻が専業主婦世帯ともに家事時間は減少し、育児時間は増加しています。

図表 19 世帯類型別男女別家事時間の推移



資料：社会生活基本調査

図表 20 世帯類型別男女別育児時間の推移



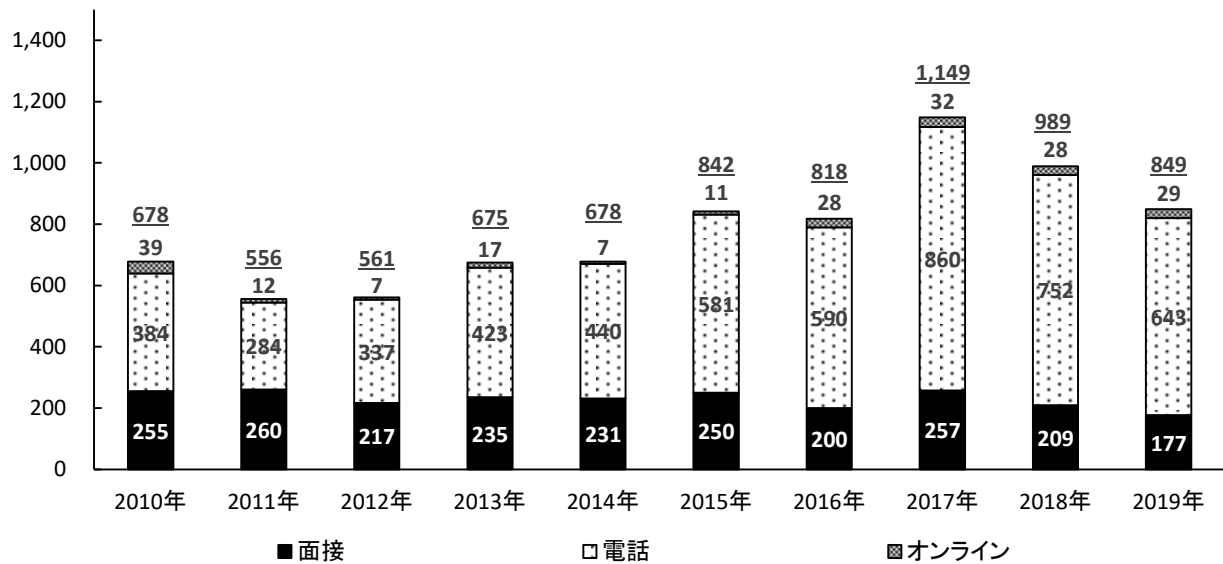
資料：社会生活基本調査

4. DV について

(1) DV相談件数の推移

春日井市のDV相談件数については、2012年から増加傾向にありましたが、2017年をピークに減少傾向に転じています。

図表 21 春日井市役所のDV相談件数の推移



資料：春日井市

5. 国際的な男女共同参画について

(1) ジェンダーギャップ指数

世界経済フォーラムが2019年12月に発表した、男女格差を測るジェンダーギャップ指数では日本は153か国中121位となり、先進国の中でも下位の順位となっています。

図表 22 ジェンダーギャップ指数の上位国の順位

順位	国名	スコア
1	アイスランド	0.877
2	ノルウェー	0.842
3	フィンランド	0.832
4	スウェーデン	0.820
5	ニカラグア	0.804
6	ニュージーランド	0.799
7	アイルランド	0.798
8	スペイン	0.795
9	ルワンダ	0.791
10	ドイツ	0.787
106	中国	0.760
108	韓国	0.672
121	日本	0.652

資料：内閣府 男女共同参画局

(2) 各分野におけるジェンダーギャップ指数

各分野におけるジェンダーギャップ指数をみると、政治分野、経済分野のジェンダーギャップ指数が低く、男女の格差が強く表れています。

図表 23 各分野における日本のジェンダーギャップ指数

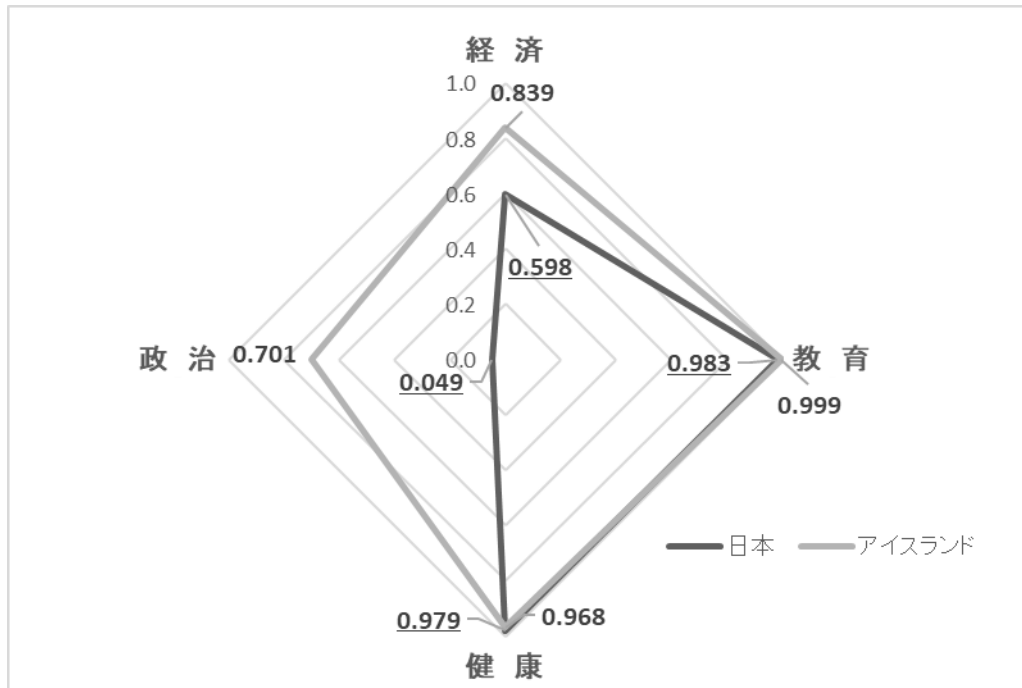
分野	スコア(順位)	昨年のスコア(順位)
経済	0.598(115位)	0.595(117位)
政治	0.049(144位)	0.081(125位)
教育	0.983(91位)	0.994(65位)
健康	0.979(40位)	0.979(41位)

資料：内閣府 男女共同参画局

(3)日本とアイスランドのジェンダーギャップ指数の比較

ジェンダーギャップ指数1位のアイスランドと日本のスコアを比較すると、健康ではアイスランドを上回っており、教育の差は殆どありません。しかし、経済と政治におけるスコアは日本がアイスランドのスコア大きく下回っており、日本の経済・政治分野における男女の格差が大きくなっています。

図表 24 日本とアイスランドのジェンダーギャップ指数

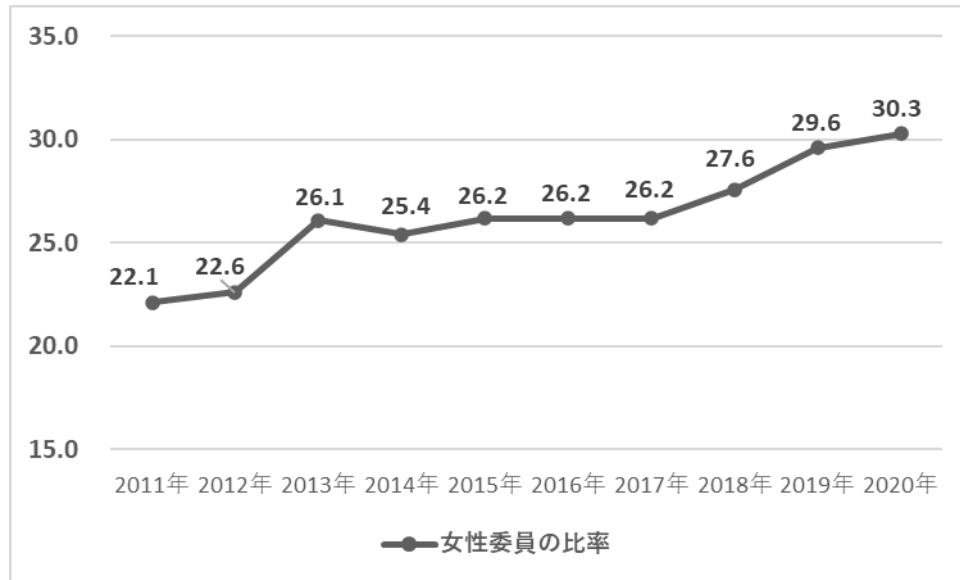


6. 女性の委員や管理職の状況

(1) 附属機関等の女性の委員の状況

春日井市の附属機関の女性委員は年々増加傾向にあります。2020年では約3割が女性の委員となっています。

図表 25 附属機関等の女性の委員の状況の推移

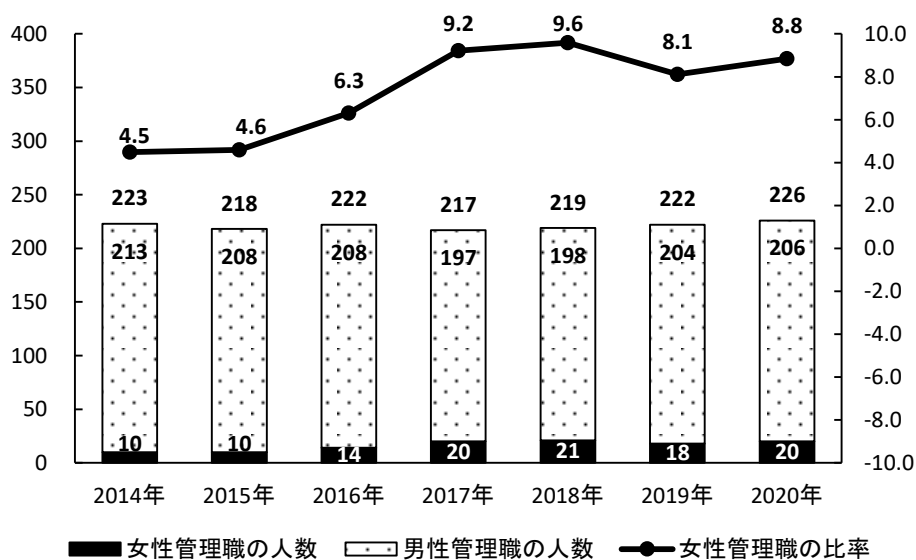


資料：春日井市

(2) 市職員(行政職)の女性管理職

春日井市職員(行政職)の女性管理職の割合は、増加傾向にあります。2014年と2020年と比較すると、女性の管理職は2倍となっています。しかし、2020年の女性管理職の割合は全体で1割未満となっており、未だ低い状況にあります。

図表 26 市職員(行政職)の女性管理職の推移



資料：春日井市